



国際ロータリー第2800地区 1959年6月9日創立

# 鶴岡ロータリークラブ

ロータリー：  
変化をもたらす

例会場 東京第一ホテル鶴岡 (鶴岡市錦町2-10)  
例会日 毎週火曜日 (12:30~13:30)

平成 29 年 8 月 1 日 (火) 第 2811 回 例会 (本年度第 4 回)

8月 8日 (火)	ゲストスピーチ 妹島設計事務所 池田 賢氏「鶴岡市の文化会館について」
8月 15日 (火)	RI規定休会①
8月 22日 (火)	だだちゃ豆家族例会
8月 29日 (火)	会員スピーチ 武田啓之君「会社経営について」



Eメール◎tsuruoka08@rid2800.jp ホームページ◎http://www.tsuruokarc.org/

## あ 会長報告

会長/木村 節

〈第 3 回理事会〉

- 事務局人頭分担金について  
詳細は、別添資料参照願います
- 60周年記念事業実行委員会の立ち上げ  
委員長 藤川パストガバナー  
委員 会長経験者 (丸山 阿部 佐藤 (友)  
越智 樋渡 佐藤 (孝)  
真島 富樫 木村 菅原  
武田 佐藤 (詩) 総勢 13 名)
- 60周年記念事業積立金の増額について  
29年上期 10,000円 29年下期 15,000円  
30年上期 15,000円 30年下期 15,000円  
理事会で承認
- ガバナー公式訪問日時について  
9月19日(火) 18:00点鐘  
例会行事① (20分程度)  
例会行事② (90分フォーラム形式)
  - ・ガバナー講話 (30分程度)、  
ガバナー補佐の講話 (5分程度)
  - ・テーブルディスカッション (30分程度)
    - ①クラブをさらに活性化するために、クラブに  
要望したいこと
    - ②地区運営について、ガバナーに要望したいこ  
と
  - ・テーブルリーダーからの発表 (15分程度)
  - ・ガバナー講評・質疑応答、会長所感、  
閉会点鐘 (10分程度)
 懇親会 (60分程度)
- 8月22日(火) だだちゃ豆家族例会に青少年交  
換学生の担当ホストファミリーである酒田の小松先  
生ご夫婦 +Justin James CANNIZZARO 君をご招待す

る。

6. 青少年交換プログラム 6 クラブ共同受入分担金  
納入について了承  
2017年7月1日 現在の会員数 × 3,000円

## 幹事報告

幹事/佐藤 誌郎

- 鶴岡東 RC  
8/16 RI 規定休会
- 鶴岡西 RC  
8/14 RI 規定休会  
8/21 foodever 家族例会 登録料 7,000円
- 鶴岡南 RC  
8/10 水沢化学見学例会  
8/17 RI 規定休会  
8/24 親睦夜例会 新茶屋

## 卵子の研究と私たちの暮らし

山形大学大学院 農学研究科 木村 直子先生



私に関わる研究は、動物の発生です。簡単に言うと精子とか卵子とかを操作して、私たちの暮らしに役立てるための技術開発ということになります。

す。

ところで畜産物の摂取量と平均寿命は、正の相関で、つまり、畜産物の摂取量が上がると、平均寿命も上がっていく。これは世界的に言われていることです。日本でも動物性食品の摂取量は、1930年に比べ、豚・鳥に関しては、30倍から60倍、牛は、2000年にBSE問題があつてから、少し落ちている

## 出席報告

会員数	29名
出席	22名
出席率	78.57%
前々回確定出席率	89.29%

■RI 会長 イアン H.S. ライズリー ■地区ガバナー 鈴木 一作

■会長/木村 節 ■副会長/菅原成規 ■幹事/佐藤誌郎 ■会長エレクト/武田啓之  
■会報委員会/阿蘇司朗・菅原成規・迎田 健・前田 優・真島吉也

事務局:山形県鶴岡市錦町2-68 鶴岡SSビル1F TEL (0235) 28-3375 FAX (0235) 28-3376

んですが、それでも8倍くらいに上がっております。それに伴い、平均寿命は皆さんも御存知の通り大変伸びているわけでございます。

私達の平均寿命と健康に動物性食品が関わっている訳で、それをどのように入手するか、現状をみると、日本の畜産物の自給率は、食料全体の自給率が39%程度とされています。日本の畜産物の自給率は、肉・鶏卵・牛乳の自給率が、55から95%の間ですが、実際は日本は、餌をほとんど海外に頼っているわけです。国内の飼料の生産は26%で、これを加味しますと、日本の畜産物の自給率は、だいたい15~20%といわれていて、日本全体の自給率を下げているのは、畜産物の影響が大きいということになります。そこで、いかにして日本の畜産物の自給率を上げるのかということですが、そこで登場するのが私が関わっている分野です。

日本で作られる牛の99%は、人工授精です。凍結した精液を、子宮の中に入れ、受精すると280日で子牛が産まれます。こういった技術開発は畜産分野での経済性と食糧の安定供給、それから、ヒトの代替臓器の提供や高度生殖補助医療領域にも応用されています。こういった領域に、関わっているわけですけども、それでは私が山大にお世話になってから、どういったことをやってきたのかを少しだけお話させていただきます。

私は、1992年に東北大学の農学部畜産学科を卒業しました。そのあと、伊藤ハムという会社に入りました。伊藤ハムでは6年間中央研究所の畜産バイオ研究室にお世話になり、XYセレクトターという受精卵のオスかメスかを見分ける試薬の開発に3年ほど携わりました。

学生の時は何も研究とか勉強に興味がなく、就職しましたが、研究所にいる間に意外と面白くなって、エイヤーと会社を辞め、29歳の時に、東北大に戻り博士を取り直しました。普通は28歳ぐらいで博士を取るのですが、私が取ったのが33歳の時でした。たまたま博士を頂いた後に、山形大学にポストが有りましたのでお世話になることになりました。

こちらに来てからはどういうことを考えたかといいますと、メスですね、哺乳類のメス、人間もそうですが、寿命は伸びてるのに生殖寿命、生殖できる年齢は大昔から変わらないわけです。何故なのか。生殖寿命を制御できれば、畜産分野でも、ヒトの人生考えた時、少し生き方が変わるんじゃないかなと漠然と考えながら、なんとか生殖寿命の根本的な延伸ができないかと考えながら仕事を現在もしております。

ポイントは、卵子の老化をどうやって克服するかです。そのためには卵を回復させる技術開発が必要なんです。あとは卵巣の中の卵の枯渇をいかにマイルドにするか、そういった技術開発に現在は取り組んでおります。

最後に、大学は教育機関ですから、研究も大事ですが、教育はもっと大事だと思ってます。私は常に何を学生に伝えてあげればいいのかだろうと考えながら接しています。進化の早い世の中で、技術とか知識というのは、5年もすればもう古くなってしまふ。それを考えたときにじゃあ何が大切なのか、それは人間力、本質的な所をちゃんと丁寧に教えなきゃいけない、その辺のところを少し意識しながら彼らと接しています。

じゃあどうすればいいのかということですが、できるだけ、例えば学会発表とか、高校生に教えるとか、そういう日々の研究生生活の中でも、彼らが経験したことがない、しかも、ちょっと人の少し上に立つような、そういったシーンをたくさんひたすら集めてあげると、鍛えられるっていうことですね。それから、できるだけ失敗ないように教育するっていうのが大切だと思うのですが、やっぱり、一生転ばない人なんかいないわけで、むしろどんどん今は転ばせてあげて、どうやって起き上がるのか、転んでもタダでは起きるなど、そういったことを教えなきゃいけないのかなと思っています。私は自分が結構これでもいろんなことに挫折してきたので、丈夫に育てようと思っています。そういったことをどんなに口で言っても伝わらないのですよ彼らには。経験したことがないので。ですので、私は良くも悪くも反面教師という言葉もあるし、彼らは私を見て、こんな人にはなりたくないとか、こんな思いはしたくないと思ってくれたら私は本望です。本当に日々、汗かいて恥かいて、ときどき学生の前でも愚痴を言って、そういうアクセクする必死なところをあえて隠さない。これは研究室の中だからこそできるのだと思っています。そういった姿を見て、彼らがなにか感じてくれたらいいかなと思っています。すごく地道にというか、全然教育論にはなっていないのですけれども、こういったことを考えながら日々学生に接しております。以上少ない話で大変すみませんが、これで終わらせて頂きます。ありがとうございました。

## 委員会報告

### 出席委員会

#### ◆ゲスト

山形大学大学院農学研究科教授 木村直子氏  
米山奨学生 マリエッタ

#### ◆メイクされた方

加藤一弘君 小林健郎君 武田啓之君 高山裕司君

## スマイル

迎田 健君 鶴岡地区歯科医師会は今年創立100

周年を向かえます。ご理解お願い申し上げます。

武田啓之君 例会欠席のおわびにスマイルします。

富田喜美子君 お忙しい中スピーチを有がとうございました。アンチエイジングにはとても興味があります。